

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401772		
法人名	有限会社 グループホーム梅の木		
事業所名	有限会社 グループホーム梅の木		
所在地	長崎県南島原市深江町乙1452番地		
自己評価作成日	令和3年8月13日	評価結果市町村受理日	令和3年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和3年10月22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康で長生きの人生を理念として利用者の健康管理・転倒防止・感染予防の早期発見に心がけ医療機関と連携に努めている。利用者の一人一人を大切に人格の尊重の思いで接し家庭的な雰囲気や安心・安全・快適に過ごせるように支援している。現在、コロナ禍の為に特にホーム内の清潔を職員の清掃によって保ち、換気、冷暖房の調節、加湿の状況を管理しながら入居者の健康管理に努めている。そして、面会も制限されているため家族と交流できるように月に一回電話する時間を設けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境豊かな閑静な場所に当ホームは立地している。ホームは身体拘束「ゼロ」に取り組んでおり、「身体拘束廃止の為にケアの工夫事例」、「身体拘束を行わずに事故を防ぐ方法」の研修のほか外部講師を招いて勉強会を行うなど職員は身体拘束の弊害を学び実践に努めている。全居室にはエアマットを使用し褥瘡予防に重点的に取り組んでいる。代表者及び管理者の自宅がホームに隣接しており有事の際には即座に協力できる態勢を整えている。避難誘導担当を随時変更することであらゆる災害に臨機応変に対応できるよう実践的に訓練していることが窺える。ホーム内は換気と清掃の徹底に取り組んでおり空気のおよみや気になるようなおいは感じられない。ホームの基本方針を「人格尊重、真心中でサービス提供、健康で長生き人生、自由で伸び伸び人生」として日頃から職員へ周知を図り、入居者支援に取り組んでいることが窺える。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地域の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、個人の人格を尊重しつつ生活支援に心がけ、真心のサービスを提供委し、理念に沿ったケア提供が出来るように日々取り組んでいる。	ホームの理念である「人格尊重、真心でサービス提供、健康で長生き人生、自由で伸び伸び人生」を事務所に掲示し、職員へ周知している。管理者は理念を踏まえ介護の実践状況を振り返りながら取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	諸行事への参加の呼びかけを行い、地域の方々へ挨拶など心がけて行っている。しかし、コロナ禍の為実施が難しいため落ち着いたら地域の方と交流をはかっていきたい。	コロナ禍により地域との交流は自粛している。これまでは地域の老人クラブの方や歌い手のボランティアの方、消防団員等がホームの敬老会などの行事開催時に訪れ、交流していた。管理者は地域清掃にも参加して挨拶を交わすなど地域住民と交流している。管理者はコロナ禍が終息したら地域交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在までに生かした経験や知識をもとに、来られた相談等には気軽に応じるよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内容を職員に周知徹底し、家族と共有して運営や適切な介護に反映するように努めている。	運営推進会議には家族代表、町内会代表、地域包括支援センター職員、外部有識者、ホーム代表者、計画作成担当者で構成している。入居者の状態をインシヤルで表記し説明している。感染症の予防策、行事報告を行い、各委員へ書面を送付している。職員にも議事録が閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の連携を密に行いサービス向上に努める。	制度上の疑問点等は島原地域広域市町村圏組合の介護保険担当者へ連絡・相談し、サービス向上に向けて取り組んでいる。必要に応じて社会福祉協議会の金銭管理サービスの利用や南島原市生活保護課担当者と協力関係を築き連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束の勉強会を開催し、常に全職員と話し合い身体拘束ゼロに努めている。	身体拘束「ゼロ」に取り組んでおり、訪問調査日において身体拘束が必要な入居者はいない。3月に「身体拘束廃止の為ケアの工夫実例」、6月に「身体拘束を行わずに事故を防ぐ方法」の研修を行った。また、外部講師を招いて勉強会を行うなど身体拘束の弊害を学び実践に努めている。	身体拘束等適正化委員会は運営推進会議と一体的に設置・運営している。尚、身体拘束等適正化委員会で身体拘束等への取り組み状況について説明した場合は分かりやすいよう議事録に残しておくことが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴・更衣等での身体観察を行うと共に利用者の表情の変化の観察を行い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で研修会を行ったり、成年後見制度の理解を深め、必要な場合は活用出来るよう心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長より十分な説明を行い家族の理解・納得を得て契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口、相談担当者についての説明を行い、苦情処理箱を設置している。家族の意見は謙虚に受け入れ改善に努めている。	コロナ禍の為、家族との面会は玄関前にて必要最小限に行われている。また、遠方の家族には毎月電話連絡を行い入居者の状況を伝え、家族の意向を確認している。事業所だよりを3か月毎に発行し、入居者の生活の様子を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞く機会を設け改善に努めている。	代表者や管理者は日頃より職員とコミュニケーションを図っている。また、毎月の職員会議や3か月毎の勉強会にも出席し、職員が話しやすい雰囲気留意しながら職員の意見を聞く機会を設けている。職員のアイディアは積極的に運営に取り入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状態や家庭環境に合わせた勤務体制をとっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員各自が向上心を持って働けるよう2ヶ月に1回定期的に勉強会を開催している。研修会は現在コロナ禍のため行えていないが落ち着いたら行っていこうと思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南島原市グループホームケア研究会に入会しており各種研究や職員交流会にも参加させている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族の訴えに傾聴し速やかに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に話や相談が出来るような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があればその都度速やかに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になり、学んだり支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の立場にたち、共に一緒に本人を支えていく努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時、本人との会話を極力行ってもらうように努めている。しかし、コロナ禍の為面会も制限されているため家族と交流できるように月に一回電話する時間を設けている。	コロナ禍以前は入居者の友人や知人が訪ねて来た際にフロアや居室で会話ができるよう支援していたが、現在はコロナ禍の為、友人や知人との面会は制限している。尚、家族と話す時間を確保し、月に1回は電話で会話して関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションの場を確保し交流がはかれるようにサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされる利用者や家族にはその都度対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合わせ検討し安心してホームでの生活が過ごせるよう心配りをしている。	入居時に家族から入居者の生活歴を聞き、本人の思いや意向をホームでの暮らしに反映できるよう努めている。難聴の方や発語が難しい方には家族にも相談しながら、日々のバイタルや生活状況を検討し本人本位の支援ができるよう取り組んでいる。支援記録は家族にも示し家族の安心へと繋げている。家族や本人が発した言葉は特記事項に記録を残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活状況を把握し、サービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人にとって自分らしく楽しく過ごせるように話し合っている。	バイタル担当職員が日々の入居者の血圧、食事、排泄、投薬、入浴、日中の状況といった事項を記録しモニタリング、日々の話し合いを通じて計画作成担当者による介護計画の立案に繋げている。介護計画立案時のほか見直しや計画変更時には家族に説明し同意と署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個々に記録し気づいた点を介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の身体状況に合わせ要望に応じた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へ定期受診を行っている。	ホームはかかりつけ医との関係を築いており、受診時には職員が同行し、入居者のバイタル表等の記録類を持参して医師へ説明している。専門医療機関を受診する方もおり、受診後には職員が家族へ状況を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要に応じ様子を聞いたり、面会を行って状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合い、医師との連携で方針を共有している。	入居時にホームでの看取り支援について入居者及び家族に説明し同意を得ている。入居者が終末期に至った際にはあらかじめ家族の意向を確認し、主治医とも相談し話し合いながら支援方法を検討している。褥瘡予防としてエアマットを導入して支援している。透析、ストーマ、酸素、胃瘻などの医療的ケアが必要な場合は家族及び医療機関と連携して支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え可能な限り救命講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練実施。 ハザードマップを施設内掲示し、職員が常に閲覧できる体制を整えている。施設近隣の危険箇所の確認と避難ルートの再確認を実施している。	年2回、初期消火・通報・避難誘導の訓練を実施し、運営推進会議で報告している。地域の消防団へ訓練参加への声かけを行っているがタイミングが合わず参加はできていない。代表者及び管理者の自宅がホームに隣接しており有事の際には即座に協力できる態勢を整えている。避難誘導担当を変更することであらゆる災害に臨機応変に対応できるよう実践的に訓練していることが窺える。	避難訓練実施時には運営推進会議に報告後議事録に残すことが望ましい。また、訓練実施後の検証や反省点を職員間で共有し記録として残すことが望まれる。備蓄に関し備蓄品リストを作成して賞味期限を管理することが望ましい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないよう心がけ状況に応じた対応を行っている。	職員は入居者のプライバシーや羞恥心に配慮し、入浴は個々に、排泄時のドアの開閉、敬語の使用等、尊厳が保たれるよう留意して取り組んでいる。管理者は入居者が人生の大先輩であることを職員へ意識付け、気になった点は職員同士が互いに注意しあえる環境を整えている。	コロナ禍により職員が接遇研修等への参加ができていないことを踏まえ、職員の言葉のトーンや入居者へのかかわり方などを再点検し、接遇研修の受講の機会を研修計画として立案するなど今後の取り組みに期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々が納得した自己決定が出来るよう説明・対応を行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせて自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がホームのサービスとして行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせ出来る範囲にて準備・片付けを行っている。	食器は本人が使い慣れたものを持ち込んで使用している。現在、食事は外注し、本人の状態に応じてキザミ・トロミ・ミキサー食を提供している。スイカや柿など地域で採れた季節の果物を追加で提供している。食器拭きや台拭き等、本人ができることに取り組んでいる。毎月1日は赤飯や時季の行事食を設けるなど食事が楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態や身体機能に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事のバランスを考え水分補給・腹部マッサージ等個々に合わせ体を動かすことも取り組んでいる。	排泄チェック表に入居者一人ひとりの排泄状況を記録し、その方の排泄パターンの把握に努めている。食事のバランスを考慮し、個々に応じて水分量やマッサージ、与薬等スムーズな排泄となるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況に合わせ飲食物の工夫や主治医処方薬を使用するなどして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック・健康管理を行い、状態に合わせて入浴・清拭を行う。	入浴は週2回、火・土曜の午後1時半からを基本として支援している。本人の意向や必要があれば入浴日以外も入浴ができるよう配慮している。入浴を拒否する方には時間や言葉かけを変更しながら対応している。入浴を楽しめるよう入浴剤を使ったり、入浴ができない場合には足浴や清拭にて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ、ゆっくり安心して休息したり、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設で服薬管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が楽しみ趣味を生かし、活動できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の希望があれば外出・外泊できるよう支援している。	コロナ禍の為、外出は自粛している。コロナ禍以前は地域の花火大会や初市といった催し事や花見などに出かけるなどの外出支援を行っていた。尚、病院受診の帰りに、墓参りや本人の自宅を見に行くなどのほか庭先で日向ぼっこをするなど個別の支援はできる範囲で継続している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり金を管理し、必要に応じて嗜好品を購入される。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時などは家族へ連絡を取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう花を飾ったり、思い出の写真を貼り、心地よく過ごして頂けるよう空間作りに努力している。	共用空間には季節に応じた装飾や思い出の写真を掲示していつでも眺められるようにしている。職員の清掃や換気によって清潔感がある空間を整備している。天候の良い日には布団を干し、室温や湿度にも配慮し、入居者が居心地良く過ごせるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が自由に好きな場所で思い思いに過ごせるよう居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を居室に置いて、過ごしやすい環境作りに取り組んでいる。	居室には入居者が自宅で使い慣れた物を自由に持ち込めるよう配慮している。家族の写真や入居者馴染みの物が持ち込まれており、その方に応じた居室づくりに取り組んでいる。全居室のベッドにはエアマットを使用し、褥瘡予防に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体機能に応じ安全に生活が送れるよう配慮しながら行っている。		